

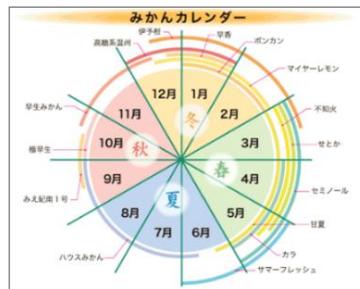
就農促進の優良事例

三重県御浜町における就農促進の取組

1 地域の概要

御浜町は、三重県の南部に位置し、熊野灘に面して、平坦地から丘陵地が広がり、海洋性気候のため温暖多雨である。

S50 年度から国営農地開発事業により、礫質の水はけの良い、平ら又は緩やかな斜面の園地となり、「年中みかんのとれるまち」が町のキャッチフレーズとなっている。



御浜町の「みかんカレンダー」



2 取組の契機

H20 に今後のみかん産地の行く末に危機感を抱いていた、三重県の紀南地域にある3市町（熊野市、御浜町、紀宝町）、県、JA伊勢（当時JA三重南紀）が、「三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト協議会」（事務局：JA伊勢）を立ち上げた。

特に御浜町は、みかんの県内一の産地で、基幹産業はみかんを中心とした農業であるが、近年、農家の高齢化等により生産量が大幅に減少する一方で、若い世代では転出超過となっており、人口減少、将来の町の活力維持のための取組が急務となっている。

このため、本町の最上位計画である第6次御浜町総合計画（前期基本計画 R3～R7 年度）において、最優先施策として「みかん産地の再生」、「若い世代の定住促進」を重点プロジェクトとして、R3 年度から「オール御浜」で本格的な取組を開始した。

取組に当たっては、本町がリーダーシップを発揮し、JA伊勢、就農サポートリーダー（県に登録されている農業法人・指導農業士等）、県農林事務所・普及センターと連携し、充実した情報発信、就農相談、農業体験、長期研修、新規就農、就農後の定着まで一貫した支援をしている。

3 過去の新規就農の実績

みかんの就農相談、長期研修、新規就農の実績は、次のとおり。

特に、R4 年3月から本町の魅力やみかん就農等について、Web サイト、YouTube 動画等の SNS により積極的に情報発信したことにより、届けたい人に本当に情報が届き、発信以前に比べ就農相談件数、長期研修人数が急増するなど、情報発信の大きな影響力が出ている。

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
就農相談件数	1	0	2	27	38
長期研修人数	2	0	2	9	13
新規就農者数	3	1	8	3	12

※ R1～R5 年度の新規就農者数のうち、移住就農は 14 人。

4 就農促進の体制整備

「三重南紀元気なみかんの里創生プロジェクト協議会」では、紀南地域の3市町、県、JA伊勢が連携して、就農促進に取り組んでいる。

御浜町においては、町が全体的な推進・管理を行いながら、受入から定着まで、きめ細かなサポートをしている。

各機関の役割分担は、次のとおり。

- ①情報発信（町農林水産課、（一社）ツーリズムみはま、クリエイター）
- ②募集、就農相談、面談（町農林水産課、JA、県普及センター）
- ③農業体験、長期研修受入（町農林水産課、JA、就農サポートリーダー、県普及センター）
- ④住居の相談・斡旋（町企画課・農林水産課、御浜町移住・交流サポートデスク（（一社）ここテラス））
- ⑤農地（園地）の確保支援（町農林水産課、町農業委員会、JA）
- ⑥国県の助成、農業施設・機械の導入支援（町農林水産課、JA、県農林事務所）
- ⑦農業制度資金の相談・支援（町農林水産課、JA）
- ⑧青年等就農計画の作成支援（町農林水産課、JA、県普及センター）
- ⑨農作物技術・経営指導（町農林水産課、JA、就農サポートリーダー、県普及センター）
- ⑩販路の相談・支援（JA、集出荷団体）

5 「みかん産地の再生」の取組、情報発信による募集から就農までの流れ

みかん産地を守るため3つの柱として、「理念の共有」、「的確な情報発信」、「人材の育成」を実行し、効果を高めるため、新規就農と移住促進を一体的に推進している。

(1) 「理念」の作成・共有

本町のみかんの強みを整理するため、現場の農家をインタビューし、御浜町の差別化・競争力の高い内容、選んでもらう理由を打ち出し、「みかん、やったらええやん」の理念を作成・共有している。



(2) 的確な情報発信「正しく伝え、正しく届ける」、募集、就農相談

①Web サイト

「青を編む 三重県 御浜町」の1つのプロモーションサイトで、Iターン新規就農希望者等に向けて、「21世紀に残したい日本の自然百選」の七里御浜海岸、「世界遺産」の熊野古道をはじめとして、美しく豊かな自然、歴史、温暖な気候、穏やかでゆったりとした暮らし・人・移住などの本町の魅力、みかん就農の理念や情報等を網羅し、

継続的な発信により新規就農希望者を積極的に募集。

Web サイト・YouTube を見た新規就農希望者からは、「当町のサポートがきめ細やかで、とても充実している」、「みかん栽培が魅力的なものに感じられる」、「新規就農者の受入れに対する熱意が感じられる」などの反響があり、情報発信の効果を実感。



青を編む 三重県 御浜町 Web サイト



青を編む Web サイト「御浜町のみかん」

- 「青を編む 三重県 御浜町 Web サイト」の掲載内容
- 御浜町とは
 - 御浜町を訪れる
 - 御浜町のみかん
 - みかん農家インタビュー
 - 御浜町でのみかん作り
 - みかん農家になるには
 - 就農支援制度情報
 - 御浜町への移住
 - 御浜町で働く
 - 御浜町の特産品

②YouTube・Instagram・X
YouTube 動画【みかん就農】等で目標となる農家の姿を見せるとともに、御浜町の暮らしについて SNS で継続的に発信。



【みかん就農】三重県御浜町の就農物語 - Uターンでみかん農家の4代...



【みかん就農】三重県御浜町の就農物語 - 愛知県からUターンでみかん...

③就農相談会

リアルな場も重視し、「農家さんと会える就農相談会」（移住就農した農家が参加）を開催。

フェアでの就農相談会には、Web サイト・YouTube を見た新規就農希望者が多数来場。

新・農業人フェア（大阪府）、三重県農林漁業就業・就職フェア（三重県津市）、移住フェア（東京都）に参加するほか、随時就農相談を受け付け。



就農相談会に農家が参加

(3) 農業体験

新規就農希望者に、就農サポートリーダー・農家のもとで、1泊2日～1週間、実際に農作業を体験してもらい、本町で就農する意思の確認、長期研修に入る前に農業への適性を判断してもらっている。

また、移住就農希望者には、本町の風土や暮らしのほか、農家の話を聞いてもらうことで、この地域になじむか体感してもらう機会としている。

遠方からの新規就農希望者には、原則、町が宿泊費を負担している。



農業体験の様子

(4) 長期研修

面談重視で決定した、みかんで新規就農や雇用就農を希望する者が、就農サポートリーダーのもとで、最長2年間、農業に関する基礎的な知識と技能、年間の農作業の研修をしている。

なお、就農サポートリーダーには、町が研修期間中、3万円/月を支援している。



長期研修の様子

R5年度から町が座学として、「御浜町みかん講座」を開始し、年間20回、みかんの生態・生理、肥料・農薬、栽培方法など必要な知識を提供している。



御浜町みかん講座の様子

また、町が長期研修生の収入確保のため、研修期間中の1年間に限り、3万円/月を補助（農業版就職支援事業補助金）するほか、R5年度に研修生住宅を6棟完備し、Iターンでの新規就農希望者に提供（有料）している。

その他、長期研修期間中、JAの部会、営農指導の講習会、マルチ被覆作業、ハウスみかんのビニール張替作業に参加してもらい、地域に溶け込んでもらいやすいようにしている。

(5) 就農準備支援

町・JAが農地（園地）・農業機械等・住居の確保、町・県が青年等就農計画の作成等を支援しており、具体的には、次のとおり。

・本町、町農業委員会では、「御浜町農地バンク制度」を実施し、売買又は貸借できる農地を、町の窓口やHPで台帳・航空写真により公開し、新規就農者・担い手農家等の利用を促進
・研修修了者への園地の斡旋は、農業法人の農地の一部利用権の切り替え、研修先の就農サポートリーダーの紹介などで対応し、青年等就農計画の年間農業所得目標が達成できる面積を継承
・国の集落支援員制度を活用し、JA温州部会員が新規就農者向けに「みえ紀南1号（味

一号) 」の園地整備を実施
・「御浜町農業機械バンク制度」により離農農家等の中古品を受入れ・譲渡
・「御浜町空き家バンク制度」により空き家物件を町のHP等で公開

(6) 新規就農者の定着促進

新規就農者へは、町、JA、先輩農業者、県普及センターが、地域全体でサポートに努めている。

新規就農者は、御浜町みかん講座、JA 営農指導員による講習会、各品種別生産部会への参加のほか、県の普及指導員による相談、懇親会により、地域において孤立しないよう交流・情報交換の場を提供している。

新規就農後は、JA の部会に加入し、糖度センサー付き集出荷選別施設に出荷することにより、高品質販売が可能である。

また、町独自事業による新規就農関連の支援は、次のとおり。

<p>■ 新規就農者基盤強化事業補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> 要件を満たし 50～54 歳で就農する者に、農業機械・資材の経費を支援 経費の 1/2 以内、上限 100 万円、最長 2 年間
<p>■ 資材補助</p> <ul style="list-style-type: none"> より品質の良いみかんを作るための資材等を支援 マルチシート（点滴かん水を含む）、みえ紀南 1 号等の穂木・苗木、客土、防寒資材（サンテ）の購入費の一部、上限額あり
<p>■ 御浜町職員の副業制度</p> <ul style="list-style-type: none"> みかんの収穫繁忙期の 9～11 月の 3 ヶ月間、職務外の土日祝日に限り、みかんの農作業（副業）に従事し、農家の労働力確保を支援
<p>■ 御浜町移住促進のための空き家改修支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 町外から移住する者等が、空き家等を改修する工事費用を支援 工事費の 2/3（国 1/3、町 1/3）、最大 200 万円
<p>■ 御浜町空き家改修補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> 契約成立後に空き家を改修する場合、改修費用の一部（5 万円上限）を支援
<p>■ 御浜町マイホーム取得支援補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内で住宅を取得すると 12 年間で最大 120 万円相当を支援
<p>■ 子育て世帯の支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い世代の定住促進のため、保育料・小中学校の給食費を無償化
<p>■ 移住定住支援事業（出産転入子育て家庭支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内で出生又は転入した子供一人に対して Kii（紀伊）カード 10 万ポイント分を支援

(7) 人材の育成「高い志を持つリーダー農業者の育成」

R4 年度より、これからの御浜町の農業を発展・導いてもらうため、高い志を持つ農業者に対し、講師を迎えてコーチングを伝授している。

6 品種、経営モデル、栽培技術等

(1) 品種

9月中旬、本州で一番早い時期に出荷される超極早生温州みかん「みえ紀南1号(味一号)」は、市場評価が高いことから、農家所得向上のため植栽を促進しており、R5年産では栽培面積54ha、生産量750tとなっている。

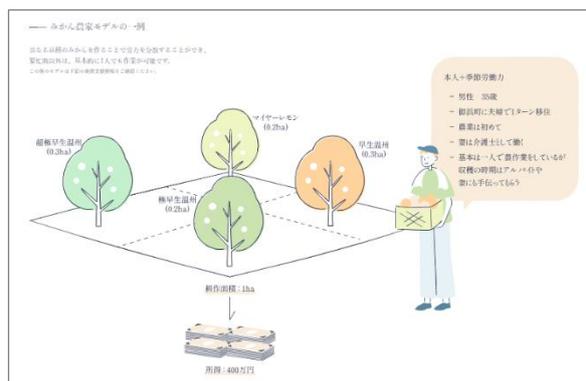


みえ紀南1号(味一号)

(2) 経営モデル

御浜町において、みかん栽培で生活が成り立つことを示すため、Webサイトで、年間の栽培スケジュール、経営モデル(経営面積、所得、労働力)を公開しており、就農後のイメージがしやすいため新規就農希望者から好評を得ている。

その他、みかんの育て方や、みかん栽培は初期投資が少額(軽トラック、動力噴霧器、倉庫、刈払機等)なこと、年中みかん



みかん農家モデルの一例

がとれることから収入確保・労力分散・台風等の危険分散ができ、平ら又は緩やかな傾斜の園地で作業負担が少ないことなどを情報発信している。

(3) 栽培技術等

- ①本町では、夏場から収穫期のみかんの水分量を調整し、甘いみかんを作るため、マルチ被覆栽培の面積を拡大。
さらに、高品質果実生産のため、マルチ被覆と点滴チューブ等を活用した「マルドリ方式栽培」を約40haで実施。
- ②夏場の高温による果実の日焼けが発生する頻度が高まっており、炭酸カルシウム資材を活用した日焼け対策を実施。
- ③気候変動に対応した植物調整剤を活用した栽培として、1-ナフタレン酢酸ナトリウムによる薬剤摘果、エチクロゼートによる熟期促進、「不知火」の腐敗果対策としてジベレリンによる果皮強化等の栽培技術を導入。
- ④県農業研究所紀南果樹研究室が、鳥羽商船高等専門学校と共同で、AIを活用して、みかんの木の画像から水分量を予測し、経験が少ない人でもタイミングを間違えることなく、水やりをすることができる技術を開発中。
- ⑤県紀州地域農業改良普及センターとJA伊勢では、みかん農家の畑の面積や品種、気象データや生育、出荷状況や作業記録をデジタル化し、品質向上や生産量を予測した販売戦略への活用を検討中。

7 その他

R5年度に「みかん産地再生協議会」を立ち上げ、40代の若手農家や女性を中心として、ワークショップ形式で議論してもらい、アイデアを補正予算等で事業化している。